音楽の持つ力で相模原から芸術を

エッキミュージックサロン　代表
森田 江利子さん

エッキミュージックサロン（中央区相模原）は、従来の音楽教室の枠にとらわれず、音楽に関する人々の幅広いウォンツ（Wants）をワンストップで提供することを基本に掲げています。商号に「スクール」や「スタジオ」ではなく、多くの人々が集うという意味を持つ「サロン」と付けたのもそのためです。音楽業界はコロナ禍で大きな逆風を受けましたが、同店はオンラインレッスンの開始などで難局を乗り切り、多彩な講師陣によるレッスンやライブといった活動も、コロナ禍前の水準に戻りつつあるそうです。今回は、「音楽の持つ力」を信じ、相模原から芸術を発信したいと情熱を燃やす代表の森田江利子さんを訪ねました。

■音楽一筋、自宅事務所からの出発

ＪＲ横浜線・相模原駅からほど近いビルの2階。エッキミュージックサロンの入口を入ると、目の前にはシンセサイザーからドラム、ＤＪブース、さらには箏や三味線まで、多くの楽器や機材が一斉に目に飛び込んできます。例えるなら音楽のおもちゃ箱。大人も子どもも「ここは絶対に楽しい所だ！」と感じるに違いありません。「音楽だけでなく、いろいろな方向に活動や事業が派生していければ……」という森田代表の想いが、凝縮されたかのような光景です。

幼いころからピアノを習い、高校の時にはバンドを組んでボーカルを務めたという、根っからの音楽好きである森田代表。大学卒業後、フリーターとして暮らしていたある夏の日、国会のテレビ中継で、当時の小泉純一郎首相が「今は、誰でも会社を作れる時代だ」と演説したのを聞き、開眼。早速、個人事業主として、まずは自宅を事務所に出張レッスン・出張コンサートを始めたのが、エッキミュージックサロンのスタートとなりました。

その後、仕事が順調に舞い込み、機材なども増えていくとさすがに手狭になったことから、最寄りの橋本駅前にテナントを借り、かつてのバンドメンバーらの協力を得ながら自宅事務所より「独立」。さらに1年後の２００７年に、現在の相模原駅前にお店を移し、洋楽・邦楽を問わず教える拠点として今日に至っています。

■アイデアとポジティブ思考

もちろんこの間、常に順風満帆ではありませんでした。東日本大震災の時には計画停電が直撃、コロナ禍では生徒が80人から5人に減ってしまいました。しかしそんなピンチも「電気が使えないなら、電気を使わない太鼓や唄がある」、ソーシャルディスタンスが求められても「オンラインレッスンを行えば、市場は相模原だけでなく世界に広がる」と、持ち前のポジティブ思考とアイデアとで乗り切りました。

そして今、改めて感じるのは音楽が持つ「人を巻き込む力」の素晴らしさだと話します。実際、コロナ前には8対2くらい少なかったレッスン生に占める大人の比率が、足元では「6対4くらいに近づいています。毎週水曜と土曜の定期ライブイベントも今年3月から再開しましたが、毎回、演奏者と生徒さんが大いに盛り上がっています」。

そう語る森田代表に、エッキミュージックサロンのいち押しは？と尋ねると、即座に返ってきたのが「人」という答えでした。サロンに集うミュージシャンの講師陣と、通ってくれるレッスン生たち。かけがえのない彼らと一緒に、例えば社歌や校歌の作詞・作曲など、「音楽に関することなら、何でも任せてくださいと言えるような場所にしていきたい」と目を輝かせています。